

 日本語版 ニュースレター Hokkaido/Massachusetts Society 北海道・マサチューセッツ協会 会報	No.45 平成 17 年(2005 年)7 月 26 日発行 北海道・マサチューセッツ協会 会長 森本 正夫 発行所 〒060-0003 札幌市中央区北 3 条西 7 丁目 道庁別館 12 階 TEL 011-231-3392 FAX 011-231-3666 発行人 中垣 正史 E-mail: homas@siren.ocn.ne.jp
--	---

北海道開拓の基礎を築いた指導者たち③

日本の天才級の人材を輩出させた“ウィリアム・ホイラー” ー札幌時計台設計者・優秀な土木技師の札幌農学校第 2 代教頭ー

明治 9 年(1876)7 月 31 日、開拓使長官黒田清隆の招きにより、マサチューセッツ州立農科大学長ウィリアム・S・クラーク(1826-1886 当時 50 歳)は、優秀な教え子のウィリアム・ホイラー(1851-1932、当時 25 歳)、デヴィッド・P・ペンハロー(1851-1932 当時 22 歳)とともに来札しました。クラーク博士が、札幌農学校(明治 9 年 8 月 14 日開校)の初代教頭(学長)として着任し、翌 10 年 4 月 16 日離札までの約 8 ヶ月間、すぐれた経営とキリスト教精神による教育指導を行なった功績はよく知られています。そして、「ボーイズビーアンビシャス」に象徴される高邁なクラーク精神は今日でもこの北の大地にしっかりと根付いているのです。しかし、クラーク博士とともに来札した優秀な教え子たち、第 2 代教頭となったウィリアム・ホイラー(滞在約 3 年)、そして第 3 代教頭となったデヴィッド・P・ペンハロー(滞在約 4 年間)のことや、さらに、一足おくれて明治 10 年(1877)2 月来札し、のちに第 4 代教頭となったウィリアム・P・ブルックス(当時 26 歳)(滞在 10 年余)などのことについては、あまり広く知られていないと思います。

それで、今回は、あのクラーク博士の大きな存在の陰にかくれがちな、ウィリアム・ホイラーの北海道近代化における業績について取り上げてみたいと思います。…札幌農学校 2 期生から、広井勇、内村鑑三、新渡戸稲造、宮部金吾、南鷹次郎、佐久間信恭らの「天才級」の人材を多く輩出したのは、実にその指導者であった青年教師ウィリアム・ホイラーの“天才性”とその人格的魅力によるものである。…と「お雇いアメリカ人青年教師ウィリアム・ホイラー」の著者、高橋哲朗氏は力説されています。

ホイラーは、1851 年、マサチューセッツ州コンコードの生まれ。地元コンコードハイスクールに無試験で入学するほどの秀才で、高校も成績優秀でした。1867 年、16 歳でアマーストに創設されたマサチューセッツ州立農科大学(1867 年 10 月 2 日開校、初代学長ウィリアム・S・クラーク)に入学します。彼は、1 期生 27 名中最

姉妹提携 15 周年記念 マサチューセッツ州訪問団 参加者募集中！！

今年 2005 年は、北海道とマサチューセッツ州の姉妹提携 15 周年にあたりますので、高橋はるみ北海道知事一行がボストンを訪問して、姉妹提携 15 周年記念公式行事を行います。

当協会も「15 周年記念訪問団」派遣を予定しています。多数の皆様のご参加申込みをお待ちしています。

10 月 12 日(水)～20 日(木)(9 日間)の日程で、公式行事参加、マ州各地訪問、特に今回はクラーク博士墓参・ホイラー墓参・ケプロン墓参も予定しています。さらに、ニューヨーク、フィラデルフィア、ワシントン DC も訪問します。(詳細は、募集要項・参加申込書をご覧の上、ぜひお申込下さい。！！)

年少の16歳。学生寮での共同生活の中で、学長クラークの薫陶を受けて、実践的学問観や「自立の人」を導ぶ人生観を身につけたといわれます。

1871年、27名中、2番の成績で卒業します。卒業後の約5年間、ホイーラーは、優秀な土木技術師として、鉄道建設の設計施工の仕事、上水道敷設のためのサンディ・ポンドからの人口水路の設計施工、コンコード川、チャールズ川のアーチ型の石橋など、マ州内の多くの公益事業の設計や施工を手がけ、その成功によって才能が高く評価されていました。

そして、明治9年(1876)7月31日、クラーク博士・ホイーラー・ペンハローの3人が札幌入りした時、ホイーラーは25歳でした。彼には婚約者がいましたが、家族の賛成を得て日本行きを決心しました。また、日本赴任に際して、彼が崇拝していたコンコードの哲人ラルフ・エマーソンの推薦文も得て着任したのです。

ホイーラーの札幌滞在は、実に多忙をきわめたものでした。まず、9月1日札幌に気象観測所設置。後の石狩川沿岸・幌向・対雁・茨戸石狩(11年8月)・留萌(11年9月)・根室(12年7月)などの観測所設置もすべてホイーラーの勧告によるものといわれます。クラーク教頭と馬に乗ってコネチカット川によく似た石狩川や琴似川・篠路川・茨戸川の河川調査など道内各地へ調査出張に出かけています。また、開拓使の依頼により札幌～小樽間・札幌～室蘭間などの実地測量と設計に基づき鉄道敷設を進言したりしています。彼が手がけた土木建築事業は少なくありません。

クラーク博士の明治10年(1877)4月16日離札幌後、ホイーラーが、第2教頭として札幌農学校運営の実績や前途有益な青年たちにあてた人格的・教育的な感化力はクラークに優るとも劣らないものでありました。学生の信望も厚くニックネームは山羊先生(ミスターゴート)と呼ばれていました。農学校の書庫・講堂・温室などの諸施設の増設。特に、アメリカ開拓時代をしのばせるコロニアル様式の「演武場」(1878年(明11)9月完成・10月16日落成式)もホイーラーの前身)。明治14年(1881)8月12日からときを刻み始めて今日に至っています。

また、牛馬や牧草・農機具を収容できる三層づくりの巨大な「モデル・バーン(模範畜舎)」の設計・施工者もホイーラーです。「時計台」・「モデル・バーン(模範畜舎)」(北大構内)はいずれも、今日国指定重要文化財として保存されています。…明治11年(1873)3月一時帰国、コンコードにて7月17日婚約者ファニーと結婚、8月妻ファニーと再来日。…札幌農学校のカリキュラムは、初代教頭クラークとホイーラーによって編成され、マ州立農科大学の知育・徳育・体育を骨格とした前人教育が実践されたといわれます。こうして、クラークによってその基礎が築かれた札幌農学校はここにほぼ体裁を整えて、日本の代表的な高等教育機関の一つに成長したのです。

約3年半滞日後、ホイーラー(28歳)は、明治12年妻ファニーとともに米国へ帰国しました。日本からの長旅の末明治13年(1880)3月、帰国したホイーラー夫妻は、郷里コンコードで盛大な帰国歓迎式典も開催され、地元紙「コンコード・ジャーナル」では、郷土の誇り「英雄」扱いでありました。帰国後、ホイーラーは、専門の仕事のほか、マ州立農科大学の運営理事、コンコードの教育委員長・図書館協会会長などの要職をいずれも無報酬で務めています。彼はコンコードの「第1級市民」(foremost citizen)と評されました。ボストンに土木工学の建設事務所を開設。東部諸州の上下水道工事の権威者としてめざましい活動をしています。

ホイーラーは、コンコードの二階建ての自宅を札幌時代(3年半)の思い出に因んでMARUYAMA-KAN(円山館)(The Round Hill House)と名付け、日本からの教え子たちの訪問を心から歓迎したといわれます。その後、大正13年(1924)73歳の時、日本政府から「勲五等朝日章」(皇太子ご成婚記念)を授与されたといわれます。老後の彼は、1932年(昭和7年)7月1日80歳で逝去するまでこの地に住んでいます。夫人は子どももなく、夫の死後もこの邸宅に住んで、1942年(昭和17年)4月18日88歳で逝去しました。夫妻のお墓はコンコード郊外の高台スリーピーホロー墓地にあります。現在、マサチューセッツ州立大学アマースト校キャンパスには、「学生寮」(ホイーラーハウス)(1960年・昭和35年10月完成)があります。

「さっぽろ羊ヶ丘展望台」の雪まつり資料館長 松原晴哉氏が紙芝居「札幌とクラーク博士」をはじめられたのは、平成4年(1992)4月16日、それは奇しくも、クラーク博士が115年前の明治10年(1877)に「Boys be ambitious!」の言葉を残して離札した日でした。特別の思いを込めてスタートされたとのこと。それ以来約12年間、毎年5月～10月の観光シーズンには、毎日1日約4回の公演を続けてこられました。

シルクハット・フロックコートにあご鬚のスタイルで音吐朗々とした語り口は、「丘の上のクラーク像」とともに日本のみならず、世界各国からの観光客に大評判になっておりました。今年3月に、体調の都合でご退職になり、そのまま今シーズンは中止になっていますので、あの羊ヶ丘展望台の名物「紙芝居」を惜しむ声が高まっています。

このように地道に、永年にわたり、貴重な国際交流の推進者としてご尽力された松原晴哉氏をご存知の方は多いと思いますが、しかし、意外にこの紙芝居「さっぽろとクラーク博士」のことを知らない方もまた多いのではないかと思います。今年2005年は、北海道・マサチューセッツ州姉妹提携15周年の年にあたりますので、ここに紹介申し上げたいと思います。ご本人の「回想記」もご寄稿いただきましたので掲載いたします。



「写真左」
丘の上のクラーク像と
札幌ドームを背にして
公演中の松原 晴哉 氏



紙芝居「さっぽろとクラーク博士」の表紙



①太平洋を渡る外輪船上のクラーク博士



②札幌の街並みを見下すクラーク博士の一行



③札幌能学校入学式で挨拶をするクラーク博士



④「右手にペンを左手に鋤を」学問と農業実践を奨励
休み時間には雪球をぶつけて体をほぐす風景



⑤学生達と手稲山雪中登山で、新種クラーク苔を発見



⑥酪農王国北海道のシンボルとなった「モデルバーン」紹介



⑦「イエスを信じる者の誓約」を説く場面



⑦島松駅通でのクラーク博士別れの場面

回想記

「クラーク先生との10年余の日々」

元さっぽろ雪まつり資料館 館長 松原 晴哉

札幌市の観光名所「羊ヶ丘展望台」に、右手を高く掲げ、永遠の真理を示しているクラーク博士の銅像が立っている。

北海道開拓使の要請でクラーク博士が、札幌を訪れたのは明治9年(1876年)7月31日、当時の札幌は人口わずか2,600人たらずの小村であった。

札幌農学校の開校に細かい校則を定めず、ただ一言「紳士たれ」と述べたクラーク先生は、敬虔なクリスチャンとして又、学問と実践を唱える熱心な教育者として、期待に応え、その教えは「青年よ、大志を抱け」の名言と共に長く北海道のバイオニア精神の支えとなって来たのである。

札幌滞在わずか八ヶ月半、教え子達の中から近代日本を背負う優秀な人材が輩出した事は、クラークの教育的影響がいかに大きかったかを物語っている。

教育の荒廃が叫ばれている現代、クラークの原点に戻り、開拓者魂を全国に伝えたいと考えた札幌観光協会は暗中模索ながら、その数々のエピソードを紙芝居として上演することとし、平成4年4月16日(クラークが札幌を去った日)「札幌とクラーク博士」がスタートしたのである。

当時、羊ヶ丘ウエディングパレスの館長であった私に白羽の矢が立ったのは、三十数年の商社マンとしての生活にピリオドを打ち、第二の職場に至るまでの自由な時間に、気分を変えるために伸ばしみた黒髪が目に残ったこと、声の大きいこと、クラーク先生と体格が似ていたことによると言っている。

さりとて紙芝居など演じたこともない私にとって館長職と当時10時・11時・14時・15時の一日4回の上演には、いささか自信が持てなかった。黒のフロックコートにシルクハット、白手袋にあご髭といういでたちはともかく、セリフを暗記し、人前で話すことに慣れなくてはならない。スタートの初日は未だ肌寒い曇り空であったが、それでも50人の観客が拍手で迎えてくれた。

クラーク像の横に、高さ2メートル・幅1メートルの特注の木の台を据え、新聞全紙大の発泡スチロールに手書きの絵を張り付けた大型の紙芝居である。

エピソードは、①遠くアメリカ、マサチューセッツより日本に太平洋を渡る、外輪船上のクラーク博士に始まり、②小樽港から馬をとばして4時間、札幌の街並みを見下すクラークの一行、③札幌農学校の入学式で日の丸を背に「紳士たれ」と学生に挨拶をするクラーク、④「右手にペンを左手に鋤を」と学問と農作業の実践を奨励し、⑤休み時間には雪球をぶつけて体をほぐす風景、⑥生徒達と手稲山に雪中登山で、新種のクラーク苔の発見、⑦酪農王国北海道のシンボルとなった「モデルバーン」の紹介、⑧イエスを信じる者の誓約、⑨そしていよいよ、島松駅通でのクラーク別れのシーン等前口上を入れて全10景である。上演時間約20分。見振り、手振りで解説し人々が興味をもって聞いてくれた事に安堵した。大きな拍手と共に、家族が花束を持って初日の成功を祝ってくれたのが、昨日の事のように思い出される。

羊ヶ丘は標高約147メートル。テレビ塔と同じ高さであるため風が強く、少しくらい雨が降っても、また炎天下でも、一度始めたことは止められない、新聞・テレビ・雑誌に紹介され、観光客にも徐々に知られるようになって札幌の夏の風物詩となるのにそんなに時間はかからなかった。

始めた頃、五千円札の新渡戸稲造がクラークの影響を受けたことを説明しても知る人は少なかったことにショックを受け、クイズを取り入れることにした。例えば、「当時の札幌の人口は？」・「右手にはペンを左手には？」・「五千円札の肖像は？」・「クラークの札幌滞在期間は？」等である。この中で、クラークの滞在期間がわずか八ヶ月半という正解が少ないのに、改めて驚いた。

クラークの誕生日7月31日生まれの人にプレゼントをすることにしたり、雪まつりグッズをクイズの景品にしたりなど色々工夫して喜んでもらった。

紙芝居が済んでも会場の余韻は残っている。握手を求められたり、一緒に写真をとられたり、赤ちゃんを抱いてくれと頼まれたり、私をクラーク先生と思い込む人も出て来て、私自身もほとんどクラーク松原の意識になったりもした。

振り返ると、私の人生はクラーク先生との不思議な縁で豊に彩られたと思う。また、多くの人々にクラーク博士の素晴らしさを伝えられたことを光栄に思い、この10年間の充実した日々に感謝している。

(北海道・マサチューセッツ協会会員)

(資料)

札幌農学校の基礎を築いた ウィリアム・S・クラーク(1826～1886)を記念するもの

①「クラーク胸像(北大構内)」(札幌市北区北9条西7丁目)

ウィリアム・S・クラーク博士(1826～1886)は、開拓使長官黒田清隆の招きにより、明治9年(1876)6月、ペンハロー、ホイーラーの二教師とともに来日、7月31日(50歳の誕生日)、札幌へ赴任しました。翌年4月までの8ヶ月半北海道開拓の人材育成のために開設された札幌農学校初代教頭として、経営・指導に尽力、そのキリスト教精神による人間教育は多くの学生に深い感銘を与えました。

このクラーク像は、大正15年(1926)、北大創基50周年記念事業の一環として寄付金により建立。田嶋碩郎(たじませきろう)作。

後に「小学国語読本」(昭8～昭13)にも載り、彼の言葉とともに全国的に有名になったのです。太平洋戦争中、金属献納で鋳潰されましたが、昭和23年再建。また、昭和34年(1969)、「クラーク会館」が北大創基80周年(1966)事業の一環として建設されました。わが国の国立大学では最初の大規模な学生会館。杉野目学長(当時)の強力な主導により実現したといわれます。

②「クラーク記念碑(島松駅通)」(北広島市島松1番地)

明治10年(1877)4月16日、学生・教授たち全員が見送る中、島松駅通で、“Boys be ambitious!”の言葉を残して、馬にムチを当てて走り去りましたが、その高邁なクラーク精神はゆるぎないフロンティアスピリッツとして、この北の大地にしっかりと根付いています。

この地を記念して、昭和25年(1950)11月、「クラーク奨学会(発起人代表宮部金吾)」らにより、この「クラーク記念碑」が建てられました。この碑は山内壮夫によって設計製作されたもの。塔の中央部には、クラークの顔部分の彫刻と、「BOYS BE AMBITIOUS」の英文字があり、さらにその下に「青年よ大志を懐け」と彫られています。

③「丘の上クラーク像(羊ヶ丘展望台)」(札幌市豊平区羊ヶ丘1番地)

昭和48年(1973)、観光団体北大構内立入り禁止により、札幌観光協会が中心となって、北大創基100年・アメリカ建国200年・クラーク博士生誕150年記念として建立したもの。彫刻家・坂担道氏の制作によるもので、さっぽろ羊ヶ丘展望台の「丘の上のクラーク」として昭和51年(1976年)4月16日(クラーク博士離道の日)に除幕式が行われました。

2005 紅葉のマサチューセッツへ・・・参加者募集中

注目のスポット

姉妹提携15周年記念マサチューセッツ州訪問団(10.12～20)(9日間)の日程の見どころ、普通の観光旅行とはここが違う、というポイントをご紹介します。

(これ以外にも、各地の有名観光スポットも、もちろん訪問いたします。)

☆ 北海道紹介パネル展、日米交流学生絵画書道展など(会場：ボストンの州庁舎ステイトハウス内)

☆ 日米交流演奏 (会場：ボストンとスプリングフィールドで行う予定)

- ・ 新都山流尺八聖琳社(主宰中島聖山)とロングリバー尺八協会(メアリー・ミラー先生)
- ・ 札幌新音楽集団“群”(主宰佐藤岡豊)と山田流箏曲社中(アヤカノ・リード先生)
- ・ 他に、洋楽器演奏も多数参加予定

☆ 15周年記念交流行事・・・ボストン・コンコード・アマースト・スプリングフィールド

(ボストン北海道ゆかりの会・ワシントン道産子の会)

☆北海道開拓期指導者ゆかりの地訪問(墓参)

クラーク博士、ウィリアム・ホイーラー、ホーレス・ケブロンなど

姉妹提携15周年記念 2005年マサチューセッツ州訪問団 (募集要項あります!!)

(期間：10月12日(水)～20日(木)・9日間 旅行費用：298,000円)

北海道・マサチューセッツ協会 平成 17 年度理事会・総会

—平成 17 年 5 月 11 日・北方圏センター会議室—

森本会長挨拶に続いて、青木次郎北海道知事政策部知事室長の来賓祝辞をいただきました。
会長挨拶も、ご祝辞もともに、2005 年姉妹提携 15 周年を契機に今後の国際交流発展への期待を力説された内容のものでありました。

なお、在札幌日本国総領事館マリー・シェーファー総領事が急病のため、予定されていたご祝辞も第 3 回米国セミナーの特別講演も中止になりました。

平成 16 年度 北海道・マサチューセッツ協会事業実績

1. 会議

(1) 平成 16 年度理事会及び総会

5 月 11 日(火) 於 北方圏センター会議室

2. 広報活動

(1) 会報「HOMAS ニュースレター」 第 42・43・44 号の発行

3. 行事

(1) 米国セミナー特別講演会(講師 米国大使館 ヒュー H. ハラ公使)

5 月 11 日(火) 於 北方圏センター会議室

(2) 国際交流ランチセミナーの実施(3 回)

第 1 回 6 月 26 日(土) 札幌後楽園ホテルレストラン「パティオ」

ゲスト 10 名 参加者 45 名

第 2 回 11 月 6 日(土) KKR 札幌レストラン「マイヨール」

ゲスト 11 名 参加者 45 名

第 3 回 2 月 19 日(土) 同上

ゲスト 3 名 参加者 33 名

(3) 北海道を知る歴史発見の旅シリーズ(4 回)

第 1 回 6 月 12 日(土) 三角山・大倉山シリーズ(参加者 16 名)

第 2 回 8 月 12 日(木) 大友掘・時計台・大通公園コース(参加者 15 名)

第 3 回 10 月 2 日(土) 藻岩山観音霊場めぐり(参加者 12 名)

第 4 回 10 月 16 日(土) 円山登山と歴史散策(参加者 21 名)

特別 10 月 26 日(火) 藻岩山頂お月見夕食会(参加者 24 名)

(4) 第 2 回 名古屋ボストン美術館の旅 10 月 6 日(水)～8 日(金)実施

—常滑焼・有松絞・白川郷・高山・馬籠—

4. 交流事業

○マサチューセッツ州関係訪問団の受け入れ

(1) コンコードカーライル高校プラスバンド 94 名来道(9 日間)

2004 年 4 月 14 日(水)～22 日(木)

(4 月 16 日(金)・札幌コンサートホール Kitara 札幌白石高校と演奏交流会)

(2)第2回ノーブルズ高校短期交換留学プログラムの先生・生徒一行(8名)来道
2004年6月11日(金)～7月4日(月)

○ マサチューセッツ州関係者の来訪

デュカキス 元マ州知事夫妻(4月7日(水)～10日(土))

森田 喜代子 マ州北海道協会理事(6月14日(月))

イクコ・バーンズ マ州北海道協会副会長(2月6日(日)～9日(水))

5. 資 料 本道とマ州の関係資料・情報の収集

平成16年度 北海道・マサチューセッツ協会一般収支決算

I 収 入

(単位：円)

科 目	予算額	収入額	増 減	摘 要
会 費	3,520,000	4,104,500	584,500	
個 人 会 費	720,000	934,500	214,500	
法 人 会 費	2,800,000	3,170,000	370,000	
助 成 金	0	0	0	
広 告 収 入	30,000	100,000	70,000	
雑 収 入	20,000	12,722	△7,278	利息・歴史発見の旅
前 期 繰 越 金	636,739	636,739	0	
合 計	4,206,739	4,853,961	647,222	

II 支 出

科 目	予算額	支出額	増 減	摘 要
事 業 費	410,000	303,065	△ 106,935	
会 報 発 行 費	140,000	12,500	△ 14,999	会報3回(印刷・送料)
セ ミ ナ ー 開 催 費	100,000	50,162	△ 49,838	ランチセミナー3回
情 報 収 集 費	10,000	7,495	△ 2,505	参考文献
特別会計繰出金	80,000	73,060	△ 6,940	名古屋ボストン美術館旅費
訪 問 団 受 入 費	80,000	47,347	△ 32,653	小グループ受け入れ
会 議 費	5,000	2,618	△ 2,382	理事会・総会
運 営 費	3,750,000	3,582,484	△167,516	
事 務 費	65,000	622,993	△27,007	事務用品費・通信費
人 件 費	3,100,000	2,959,491	△140,509	職員費・通勤手当・社会保険料等
予 備 費	41,739	20,000	△21,739	HP作成
合 計	4,206,739	3,908,167	△298,572	

III 差引残高

4,853,961 — 3,908,167 = 945,794 (次年度繰越金)

平成17年度 北海道・マサチューセッツ協会事業計画

1. 会 員 会員が減少の傾向にあるので、会員の増員と会の活性化に務める。
(事務局の努力だけでは限界があり、役員・一般会員にも積極的なご協力をお願いしたい。)
2. 会 議 理事会・総会を開催する。
3. 広報活動
 - (1) 会報「HOMAS ニュースレター」 第45・46・47号の発行
4. 行 事
 - 2005年5月10日(火) 理事会・総会
米国セミナー特別講演会
(講師在札幌米国総領事館総領事 マリー・シェーファー氏)
 - 6月11日(土) 北海道を知る歴史発見の旅シリーズ①
―三角山・大倉山コース―
 - 6月25日(土) 平成17年度第1回国際交流ランチセミナー
 - 7月16日(土) 北海道を知る歴史発見の旅シリーズ②
―円山登山と歴史散策の旅コース―
 - 9月17日(土) 北海道を知る歴史発見の旅シリーズ③
―藻岩山登山・観音霊場めぐりと十五夜(9/18)お月見コース―
 - 10月12日(水)～20日(木)(9日間)
北海道・マサチューセッツ州姉妹提携15周年記念訪問団派遣
 - 11月26日(土) 平成17年度第2回国際交流ランチセミナー
 - 2006年2月18日(土) 平成17年度第3回国際交流ランチセミナー
5. 交流事業
 - マサチューセッツ州関係訪問団の受け入れ
 - (1) ファイブカレッジセンター東アジア研究プログラム
北海道教育視察団22名来道
(6月29日(水)～7月3日(日))―ホームステイのお世話―
 - (2) コンコード訪問団約10名来札
(7月3日(日)～5日(火))
6. 資 料 本道とマ州の関係資料・情報等の収集

平成17年度 北海道・マサチューセッツ協会 一般会計収支予算

I 収 入

(単位：円)

科 目	予算額	収入額	増 減	摘 要
会 費	3,550,000	3,520,000	30,000	
個人会費	750,000	720,000	30,000	260 口
法人会費	2,800,000	2,800,000	0	140 口
助 成 金	40,000	0	40,000	(財)札幌国際プラザ
広 告 収 入	30,000	30,000	0	
雑 収 入	20,000	20,000	0	預金利息他
前 期 繰 越 金	945,794	636,739	309,055	
合 計	4,585,794	4,206,739	379,055	

II 支 出

科 目	予算額	支出額	増 減	摘 要
事 業 費	780,000	410,000	370,000	
会報発行費	140,000	140,000	0	会報3回(印刷・送料)
セミナー開催費	100,000	100,000	0	ランチセミナー3回
情報収集費	10,000	10,000	0	参考文献
特別会計繰出金	450,000	80,000	370,000	訪問団派遣費
訪問団受入費	80,000	80,000	0	小グループ受け入れ
会 議 費	5,000	5,000	0	理事会・総会
運 営 費	3,750,000	3,750,000	0	
事務費	65,000	650,000	0	事務用品費・通信費
人件費	3,100,000	3,100,000	0	職員費・通勤手当・社会保険料等
予 備 費	50,794	41,739	9,055	
合 計	4,585,794	4,206,739	379,055	

平成17年度 北海道・マサチューセッツ協会役員

(平成17年9月8日現在)

(顧問)

北海道知事 高橋 はるみ
 北海道議会議長 高橋 文明
 北海道市議会議長 大越 誠幸
 北海道町村会 会長 寺島 光一郎
 北海道町村議会議長 川股 博

(理事)

北海道鉱業会会長 村上 健一
 函館商工会議所会頭 高野 洋蔵
 北見商工会議所会頭 中神 鉄三郎
 北海道経済同友会代表幹事 大森 義弘
 (社)北海道舗装事業協会 会長 中山 健三

(財)札幌米国領事館総領事 マリー・シェーファー
 北海道大学 総 長 中村 睦男
 北海道日米協会 会 長 有江 幹男
 (財)北海道体育協会 会 長 堀 達也
 北海道経済連合会 会 長 南山 英雄
 (社)北海道商工会議所連合会会頭 高向 巖

 (名誉会長)
 北海道大学 名誉教授 有江 幹男

 (会 長)
 日本私立大学協会 北海道支部長
 学校法人北海学園理事長 森本 正夫

 (副 会 長)
 (社)北海道IT推進協会会長 山下 司
 北海道大学大学院情報科学研究科研究科長 本間 利久
 北海道経 営 者 協 会 会 長 佐々木 正丞
 (財)秋山記念生命科学振興財団理事長 秋山 孝二
 (社)北太平洋地域研究センター専務理事 松江 昭夫
 北海道国際女性協会名誉会長 阿部 三恵

 (常任理事)
 (株)北海道新聞社代表取締役社長 菊池 育夫
 学校法人浅井学園理事長 浅井 幹夫
 北海道経済連合会専務理事 大和田 勲
 (社)北海道商工会議所連合会専務理事 永井 則夫
 (社)北方圏センター副会長兼専務理事 町田 真英

 (理 事)
 札幌医科大学 学 長 今井 浩三
 北海道教育大学 学 長 村山 紀昭
 (財)北海道開拓の村 理 事 杉野目 康子
 小樽商科大学 学 長 秋山 義昭
 北海道女性国際交流連絡協議会 会長 谷本 美智子
 (社)北海道建設業協会会長 伊藤 義郎
 (社)北海道生活衛生同業組合連合会会長 小西 廣幸
 北海道バイオ産業振興協会会長 富田 房男

(株)ザ・グラス・スタジオ代表取締役 浅原 千代治
 伊藤組土建(株)取締役 社 長 伊藤 義郎
 岩田建設(株)代表取締役 社 長 岩田 圭剛
 (株)札幌銀行取締役 頭 取 吉野 次郎
 北海道ガス(株) 取 締 役 社 長 佐々木 正丞
 北海道旅客鉄道(株)代表取締役社長 小池 明夫
 (株)伊藤組 取 締 役 社 長 伊藤 義郎
 北海道電力(株) 取締役社長 近藤 龍夫
 (株)北洋銀行 取締役会長 武井 正直
 (株)地崎工業代表取締役社長 北條 紘次
 (株)北海道銀行取締役頭取 堰八 義博
 北海道空港(株) 取締役社長 岡 真則
 宮本商産(株) 代表取締役 宮本 義雄
 王子製紙(株)常務執行役員苫小牧工場長 佐伯 節夫
 (財)北海道文化財団専務理事 堀 武
 (財)北海道体育協会専務理事 松田 光院
 日本国際連合協会北海道本部長 伊藤 義郎
 ライマン・コレクション保存協力委員会常任委員 関 秀志
 北海道女性団体連絡協議会会長 中田 和子
 札幌テレビ放送(株)取締役社長 鈴木 輝志
 (株)テレビ北海道代表取締役社長 元林 憲平
 北海道放送(株)代表取締役社長 長沼 修
 北海道文化放送(株)代表取締役社長 上澤 孝二
 (株)朝日新聞社北海道支社長 中島 俊明
 (株)毎日新聞社北海道支社長 西山 猛
 北海道医師会 会 長 飯塚 弘志
 滝 川 市 長 田村 弘
 七 飯 町 長 水嶋 清
 尚美流全日本和装協会北海道本部長 上野 紀世子
 新都市流尺八聖琳社主宰 中島 聖山

 北海道・マサチューセッツ協会事務局長 中垣 正史

 (監 事)
 (株)カナリヤ 取締役 相談役 渡辺 里代子
 豊村光洋行政書士事務所所長 豊村 光洋

平成 17 年度第 1 回 国際交流ランチセミナー 記録 (抄)

テーマ 「新しい国際交流を求めて～異文化理解のふれあい～」

日 時 平成 17 年 6 月 25 日(土) 11:00～14:00
場 所 KKR ホテル札幌(札幌市中央区北 4 条西 5 丁目)
2F レストラン「マイヨール」

ゲスト:

マイケル ヘイズ (カナダ)	(札幌市教委 ALT)	(M)
チェルシー コンリン (アメリカ)	(札幌市教委 ALT)	(F)
アラモ モハメド グルシッド (バングラディシュ)	(北大大学院 ALT)	(M)
アブラダ サード エリシ (エジプト)	(JICA 海外技術研修員)	(M)
マクシムス アンジエピラヒム ソーディック (エジプト)	(JICA 海外技術研修員)	(F)
タレブ ハスン サリマ メリアン (アルジェリア)	(JICA 海外技術研修員)	(F)
ルーラ マホモード (シリア)	(JICA 海外技術研修員)	(F)
リサ ウイルキンソン (オーストラリア)	(札幌市教委 ALT)	(F)
イル ベクリ-サハル イル ガリブ アッパーズ (エジプト)	(JICA 海外技術研修員)	(F)
アブデル ハミド ファテリマ モハメッド アダム (エジプト)	(JICA 海外技術研修員)	(F)
イウイス ナグラ ファティ マホモード (エジプト)	(JICA 海外技術研修員)	(F)
サミル サイーフ サラム ハノニ (イエメン)	(JICA 海外技術研修員)	(M)

概要: この国際交流ランチセミナーは、マサチューセッツ州とのつながりに基本理念を置き、2001 年(平成 13 年)から、広く多国籍の北海道在住外国人をゲストとしてお招きして、国際交流や異文化理解の問題を論じていただき、会員同志の意見交換・交流の場にもなることを目指しています。

今回は北大大学院留学生 1 名、札幌市教委 ALT3 名、JICA 海外技術研修員 8 名、8 ヶ国から合計 12 名のゲストをお招きしました。各テーブル(8 名)毎にゲストを囲んで、ランチを食べながら、異文化交流の話をしていただき、すばらしい国際交流の時間を共有していただきました。

ここには、そのすべてをご紹介できませんので、ゲストのショートスピーチのみをご紹介します。今回の参加者は合計39名。(通訳は、当協会会員・関谷敏子さん)

アラモ モハメド グルシッド (バングラディシュ) 北大留学生 (男性)

こんにちは。私の名前はアラモです。バングラディシュから来ました。現在北海道大学の大学院で歯学の勉強をしています。皆さんは、バングラディシュについて多少ご存知かと思いますが、私の国についてご紹介したいと思います。

バングラディッシュは、元々インドの国でした。そして第二次世界大戦後、1947 年インドから東パキスタンとして分離、1971 年バングラディッシュとして独立しました。バングラディッシュは、北海道の 1.2 倍ほどの大きさですが、人口は日本よりも多いです。今日の人口は 1 億 5 千万ほどと言われています。

私の国の国旗は日本の国旗と少し似ています。日本の旗は中心が赤、外側が白ですが、バングラディッシュは中心が赤、外側は緑です。中心の赤い部分は日本と同様、「太陽」を意味していますが、もう一つ意味があります。それは、独立戦争の時に多くの人々が流した血の色を表している、という説もあります。その当時に亡くなった人たちの力によってバングラディッシュという国が作られたという思いが込められているようです。周辺のグリーンは自然(森林)を表していて、バングラディッシュは自然がとても多いということを象徴しています。

5 分間で国や私自身のことをお話するのはとても難しいですが、省略しながらお話したいと思います。

バングラディッシュは開発途上国です。日本はバングラディッシュと比べると、物価がとても高いので生活費に非常にお金がかかります。幸いにも、私達は文部省から奨学金を得ているので、大学に通うことができ、現在歯科矯正科で勉強しています。今 2 年生ですが、これから 3 年間ここで学ぶ予定です。

日本に来る前に、日本は「太陽が昇る国」「常に太陽が輝いている国」と思っていたのですが、札幌に到着した時、曇り・雨・みぞれ・雪で想像していたものとは全く違い、早速雨具を買い揃えることから始めました。私がこちらに来た時、北大の研究所に行きましたら、「バングラディッシュのアラムさんです」と紹介されましたが、正しくは「バングラディッシュのアラム」なので、教授にその事を伝え、「わかりました。訂正します。こちらはバングラディッシュのアラムさんです。」と再度紹介され、私は今後日本では自分の名前は「バングラディッシュのアラム」と変えなければならないのかと混乱しました。

また、いろいろと日本語と英語の違いには誤解が生じますが、寮にいる時に夕食の時間に間に合わずに帰った時に、寮生から大学の外にパンが売っているからそれを食べればいいと言われたのですが、私は「パン」＝「フライパン」の事だと思い、それを買って料理をしろという意味だと勘違いすることもありました。そのような事はこれからたくさん生じるのだろうと考えると非常に思い悩む事もあります。

例えば、お茶を買いに行く時に、1 杯少なくとも 200 円はかかりますが、私の国では 1 杯 4 円で飲む事ができます。このような違いにも常に驚かされました。

この 2 年間で日本語を非常に一生懸命勉強しました。当初、多くの日本人は外国人を見るとどこか距離をおくような感じを受けましたが、少しでも日本語を話せると分かると日本の方々は非常によく話し掛けてくれたり親切に対応してくれました。外国人と言ってもいろいろな国の方がいるので私個人の意見ですが、日本人は外国人に対してとても親切で協力的だと思います。

ここで最も疑問に思うことを紹介したいと思います。以前、研究所のメンバーと定山溪に 1 泊旅行に行きました。そこで 20 人くらいの人たちが全裸で一緒にお風呂に入りました。私はイスラム教なので人前で全裸になるということは想像を絶するものであり、非常に驚きました。

結婚式の時、日本の花嫁さんは着物を着ますが、バングラディッシュでは約 6m くらい一枚の布（サリー）をまといます。それから、バングラディッシュ人は絶対にお刺身のような生魚は食べません。もう一つおもしろいと思う事は、「お刺身」「お砂糖」「お水」など食べ物丁寧語には「お」をつけますが、人名にはつけないというのはおもしろい事だと思います。

今後とも何かとお世話になることもあると思いますのでよろしくお願い致します。ありがとうございました。

アブラダ サード エリシ (エジプト) **JICA 海外技術研究員 (男性)**

みなさん、こんにちは。今日のご招待いただきましてありがとうございます。エジプトから 5 人参加しておりますが、代表してお話させていただきます。先ほどアラムさんが 31 年の国の歴史を 30 分でお話していましたが、エジプトは 8000 年以上の歴史がありますので、1 時間以上お話ししなければいけませんね。(笑)

国の広さは日本の約6倍ですが、人口は日本より少ないです。皆様はよくご存知かと思いますが、エジプトは中近東に位置しており、国旗は赤・白・黒に分かれています。赤は「人間の血液」、白は「エジプトの明るい将来・勝利」、黒は「9000年に渡って続いている戦い」を表しています。エジプトで一番有名なのは「歴史と文化」です。1000年・2000年前の美術館というのはまだ新しいといえるほど古くからの歴史がある国です。この長い歴史を簡単にお話する事は不可能なので、ぜひ一度皆さんの目でエジプトを見て様々な事を感じていただきたいと思います。

エジプト人は、とても正直な人が多く女性は特にかわいらしいと思います。私が日本に来た時、典型的な日本人の家庭にホームステイしましたが、日本語も全くわからない私を、非常に暖かく迎え入れて下さり、エジプト人と日本人は表面的には違いますが、内面的・人間としての考え方にはとても近いものがある事を学びました。

エジプトでは、日本はテクノロジーの国としてとても有名です。まだまだたくさんお話したいのですが、ここで終わらせていただきます。ありがとうございました。

サミル サイーフ サラム ハノニ (イエメン) **JICA海外技術研修生** (女性)

みなさん、こんにちは。イエメン共和国から参りましたサミルと申します。イエメン共和国もアラブに属している国です。人口は約2,000万人、土地面積は52万平米くらいで言葉はアラビア語を使用しています。1990年からイエメンは一つの国になりましたが、それ以前は北イエメン・南イエメンに分かれておりました。イエメンの特産品はコーヒーとオイルです。

私はJICAのプログラムで日本に来る事ができて大変嬉しく思います。外国での生活は文化・習慣の違いなどで苦労する点が多いといいますが、幸いにも特にトラブルもなく生活する事ができています。

リサ ウイルキンソン (オーストラリア) **札幌市教委ALT**

みなさん、こんにちは。オーストラリアから来ました。日本に来て4年目になりますが、非常に短く感じています。1年に1回オーストラリアに帰りますが、いつも自分はオーストラリア人ばくなく、宇宙人のような木がします。まず日本に来て感じた事は、どんなお店でも接客が親切だということです。お店のサービスの違いも感じています。また、日本人は個人的なことはあまり公の場では明らかにしないと思います。逆にオーストラリアでは、例えばバス停でベンチに座っていると、見ず知らずの人が自分の親戚の事や結婚の事などあらゆる事をお話してきます。そのような違いは特に感じていました。

残念ながら時間が無いという事なので、今日はここで終わらせていただきます。札幌に長く滞在していますので、次回も出席したいと思います。ありがとうございました。

チェルシー コンリン (アメリカ) **札幌市教委ALT(女性)**

みなさん、こんにちは。アメリカニューヨーク州出身のチェルシー・コンリンです。ニューヨーク州の郊外で牛がたくさんいるところで育ちました。昨年8月に来日し、現在中学校で英語を教えています。学生が大好きですし、札幌も大好きです。

私は、アメリカの英語の教え方というのは日本においても良い教え方だと思います。アメリカでは小さな子どもたちが学ぶ時は「フォニックス」という学習方法で学びます。これは音で覚える方法です。最近中学1年生の女の子と話をすることがありました。彼女は、単語を覚えるのにとっても時間がかかる子でした。そこで、私は音の通りに覚えるというルールを教えました。基本を10分ほど教えると、ようやく理解する事ができました。そうしたルールを教える事で今までに聞いた事がない言葉でも、もっと早く覚える事ができるのです。残念ながら日本の学校ではこの「フォニックス」を使っているところがありません。ぜひ学校の先生にお会いする機会がある方は、この「フォニックス」を紹介していただきたいと思います。今日はお招きいただきまして、ありがとうございました。

ルーラ マホモード (シリア) **JICA海外技術研修員(女性)**

私はシリアから来ましたルーラ マホモードです。シリアは地中海沿いにある国で、185,000 平方キロメートルです。人口は約1,800 万人、公用語はアラビア語です。宗教はだいたいの方がイスラム教で、1000 年の歴史があるので、言語も建造物もとても古いものばかりです。地中海沿いに面していますが、とても乾燥している国です。地理的な条件から言いますと、3500 以上の植物のしゅるいがあります。また、農業もとても盛んです。

私の中では、日本人は他の国のことをよく知りたいと感じる人が多いという印象があります。また、たくさんの国の人が日本に滞在していますが、とても協力的で親切だと思います。今日はお招きいただきましてありがとうございました。

タレブ ハスン サリマ メリアン (アルジェリア) **JICA海外技術研修員**

はじめまして。私はアルジェリア出身のメリアンです。「アルジェリア」という国の名前は首都「アルジェア」に由来します。この「アルジェラ」というのは「島」という意味で、その島はアルジェリアから離れている4つの島を表します。400 年間その島はアルジェに属していました。アルジェリアはアフリカの中で2 番目に大きな国で、リビア・チュニジアといった国が周辺にあります。

アルジェリアは場所によって気候が全く違います。だいたい国の80%が砂漠です。公用語はアラビア語となっていますが、実際はフランス語の方がよく使われています。約 11 ヶ国の文化が入り混じっている国です。アルジェリアは非常に自然資源が豊富で、ガスの保有量は世界で第 5 位です。たくさんの事をお話したいのですが、時間の関係でここで終わらせていただきます。ありがとうございました。

マイケル ヘイズ (カナダ) **札幌市教委ALT (男性)**

みなさん、こんにちは。カナダから来ましたマイケル ヘイズです。時間が無いので短くお話をさせていただきます。私の祖父と祖母はアイルランド出身です。現在、私はフランス語と英語は全く問題ありませんが、昔はフランス語を全く話せませんでした。ですから、フランスの大学に行ってフランス語を勉強しました。そしてフランス語のルーツを学びました。今日はいろいろな国の方のお話を聞けて大変勉強になりました。ゲストの方々が自国に対する情熱を持っていることが分かりました。また参加したいと思います。今日は本当にありがとうございました。



姉妹交流ニュース…七飯町とコンコード町

コンコード町民グループの交流訪問

マサチューセッツ州コンコードからセレクトマン(町長職)のジュディー・テリーさんを団長とする 11 名の町民が去る 6 月 27 日(月)～7 月 1 日(金)の日程で来町されました。

一行のメンバーの内 8 名が教育関係者で、29 日(火)は、七飯町役場を表敬訪問のあと、コンコードのオルコット小学校、ウィラード小学校、ソロー小学校とそれぞれ姉妹校である藤城小学校、峠下小学校、大沼小学校の 3 校を訪問、児童からヨサコイの披露で歓迎を受け、お互いの子供たちの作品交換やいっしょに盆踊りを踊るなどの交流を深めました。

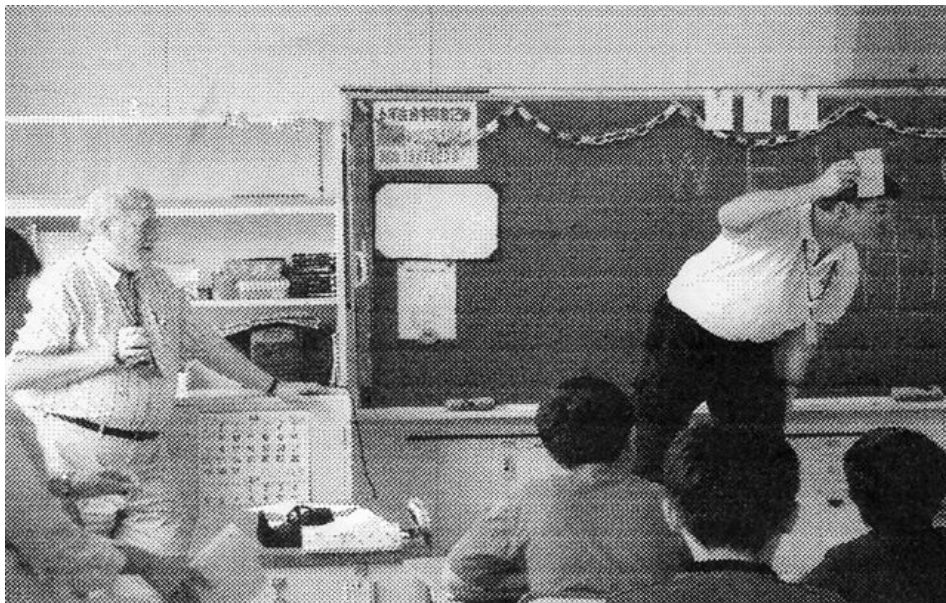
さらに、30 日(木)には、姉妹校を含め、6 つの小中高校で特別授業を行いコンコードの子供たちの様子をスライドショーにして発表したり、算数の授業を行ったりと実践的な交流が図られました。

また、滞在中は町内の一般家庭にホームステイをして交流を深めたほか、茶道体験をととして日本文化にも触れることができました。

最終日には、民間交流団体 CCNN (コンコード・カーライルと仲良くする会) の主催でポットラックパーティが開かれ、約 100 名の七飯町民と手作り料理を囲みながら楽しく交流を深めました。

コンコード側のキーパーソンであるトマス・カーティンさんは 2006 年 6 月でコンコード・カーライル高校を退職されるため、今回の訪問が現職では最後の訪問となると話されました。

しかし、後任のデビット・ナレンバーグさんが「みんなで作ってきた七飯との交流を今後も進め、両町の友情を深めていきたい」と挨拶され、両町の交流はますます盛んになると確信しています。(七飯町企画国際課 国際交流係)



トム・ホーリハンさんの授業風景(大沼小学校)



スー・ゲストさんの茶道お稽古(七飯町文化センター)

姉妹校流ニュース…滝川市とスプリングフィールド市

姉妹校交流が育む友情の絆

滝川市の姉妹都市であるスプリングフィールド市のスプリングフィールド工科高等学校(工科高校)から女子生徒2名が、姉妹校である滝川市立西高等学校(西高)に来校した。この短期留学生受入事業は今年で2回目である。

2人は、6月12日～24日までの2週間滞在し、その間辻滝川国際交流協会から記念品としてプレゼントされた西高の制服を着て、授業や部活動に西高生徒の一員として参加し、日本語と英語を駆使しながらのコミュニケーションを行い、温かい交流を育んだ。

また、今回は、西高と連携高である西小学校、開西中学校を訪れ、日本の義務教育について理解する一方、滝川の子ども達にとっても留学生と直接触れ合うという好機を得ることができた。

全日程をホームステイしたことから、日本の日常生活や文化に直に触れる機会を得る一方、学校生活においても様々な異文化を体験し、例えば、母国では自家用車での通学が当たり前であるが、こちらでは自転車や電車を利用した通学。カフェテリアはなく、お弁当を持ってくること。放課後は生徒が学校を掃除することなど、驚きと感激の日々を過ごしていた。

滝川市で実施している事業として、グライダーの体験搭乗を行い、清々しい夏空を舞った感動は、一生の思い出となった。

随行されたアン先生も、ホームステイや市民との交流などの心温まるもてなしに感動され、感涙にむせぶ場面が多々あったが、その姿は、今後の姉妹校交流が活性化し、そして姉妹都市交流が一層の発展を遂げるであろうことを予感させるものであった。

当市では、10月に予定されている北海道・マサチューセッツ州姉妹提携15周年記念事業に合わせて中高生8名からなるジュニア大使訪問団を派遣する予定である。また、12月には西高から工科高校への短期留学生派遣を予定しているが、これからも心と心が固い絆で結ばれるような姉妹都市交流を展開していきたい。(滝川市総務部秘書課交流推進グループ)



グライダー体験搭乗の感動



安齋滝川市教育長との昼食会

+---+---+---+---+---+---+ 事務局短信 +---+---+---+---+---+---+

ファイブカレッジセンター北海道教育視察団来札日程終了

「HOMAS」第44号でご紹介しました、標記アジア研究プログラムのニューイングランド各州の中・高校の先生方22名は、札幌での研修日程を予定通り終了しました。特に、北大総務部国際交流課(水口茂専門員)のご配慮による平川一臣教授の「日本地理概説一大津波について」(英語講義)・北大植物園の博物館「北方民族資料室」見学は大好評でした。他に札幌開成高校・札幌星園高校の学校訪問もありました。

また、皆様にお世話いただいた1泊2日のホームステイもとても感謝されて、心に大きな「思い出」を秘めて離れられました。当協会としても皆様に厚くお礼申し上げます。(写真はホストファミリーとのご対面)



コンコード北海道訪問団 来札日程終了

マサチューセッツ州コンコードからジュディー・テリー町長職(セレクトマン)を団長とする11名の訪問団が6月27日(月)～7月6日(水)の日程で来道しました。メンバーは他にDr.ブレンダ・フィン教育長、Dr.カーチン先生ご夫妻、通訳ジュンコ・カグーラ、小・中・高の先生方の8名でした。

最初の1週間は、七飯町訪問プログラムでした。7月3日(日)～6日(水)が来札日程で当協会がお世話しました。札幌卸売市場や北海道神宮・藻岩山・羊ヶ丘展望台・札幌ドームの見学・さらに道庁赤れんが庁舎・道立近代美術館などを見学。そして、北海道知事表敬訪問(吉沢慶信副知事)と、さらに当協会会長表敬訪問(森本正夫会長・松江昭夫副会長)もあり、スー・ルート会長からの姉妹提携15周年記念の親書持参のご挨拶と森本会長主催のなごやかな昼食会が行われました。また、札幌白石高校との音楽交流の打合わせも行われました。かなりハードスケジュールでした。

(写真は道庁表敬訪問風景)



新入会員紹介(2005年3月17日以降) <個人会員>

谷山 幸弘 谷山 愛子 坂口 直弥 武藤 順 渡辺 里代子 藪田 正美

「ホーレス・ケブロン通り」道民フォーラムのご案内

—8月27日(土)13:00～16:00・道庁赤れんが庁舎(2F)—

明治4年(1871)、黒田清隆の招きにより、開拓使顧問として来日したホーレス・ケブロン(1804～1885)は、3年10ヶ月、日本に滞在しましたが、北海道の实地調査に基づく貴重な「ホーレス報文」を残しました。「報文」は、北海道の開発計画を提案し、札幌を首都とすること、農業のために高等教育機関を設置することなどを明治政府に進言しています。このケブロンの進言により、マサチューセッツ農科大学学長ウィリアム・S・クラークを初代教頭に迎えて札幌農学校が開設(明9.8.14)されています。ケブロンの提言は、その後の北海道開拓の基礎的事業に関するものであると同時に、開発すべき諸産業の振興に関するものであり、その助言と示唆は、北海道の開拓・開発に対する重要な指針となるものであったといわれます。

このケブロンの偉大な業績を讃えるため昨年11月27日(土)、道庁赤レンガ庁舎で「ホーレス・ケブロン生誕200年記念の集い」(主催同実行委員会)が開催されました。その後、提唱者の佐々木晴美氏(社)北海道開発技術センター創設者)を中心とする「道民有志グループ」の運動として「ホーレス・ケブロン通り」設置の気運が高まりました。そして、「『ホーレス・ケブロン通り』の愛称付与に関する提案書」が、すでに、高橋はるみ北海道知事・上田文雄札幌市長に提出されて、賛同をいただいております。

この度、実行委員会(委員長、森本正夫北海道・マサチューセッツ協会会長)を組織して、第1回「『ホーレス・ケブロン通り』愛称付与推進道民フォーラム」開催の運びとなりました。その趣旨は、北海道近代化の開発の原点となった、ホーレス・ケブロンの業績を永く将来に顕彰するために、かつて「開拓使通り」と呼ばれた札幌市中央区北3条通りのうち、道庁赤レンガ庁舎前から永山武一郎邸(北2東6)までの区間(約1キロ)を「ホーレス・ケブロン通り」の愛称で呼ぶことを提案するものです。

当協会としまして、北海道・マサチューセッツ州姉妹提携15周年記念事業の一環として、マサチューセッツ州から明治期の北海道に注がれたケブロン、クラーク人脈の偉大な功績に思いを致し、この運動を推進しその実現に努めて参りたいと思いますので、ぜひ、多数の方のご参加をお願いいたします。

第1回「『ホーレス・ケブロン通り』愛称付与推進道民フォーラム」ご案内	
日 時	2005年8月27日(土)13:30～16:10
会 場	道庁赤れんが庁舎会議室(2階) (参加費無料)
主 催	“ホーレス・ケブロン通り”愛称付与推進実行委員会 (愛称付与推進道民有志グループ、北海道日米協会、北海道・マサチューセッツ協会)
後 援	在札幌米国総領事館、北海道、札幌市など
プログラム	13:30～13:50 実行委員長あいさつ・在札幌米国総領事館総領事あいさつ メッセージ紹介(北海道知事、札幌市長) 13:50～14:10 室内楽演奏 (休憩15分間) 14:25～15:15 お話(1) お話(2) 15:15～15:30 質疑 15:30～15:40 総括・アピール
ティーパーティー(15:40～16:10 会場で)	
◎ 事前申込み(8月18日(木)まで)	
参加ご希望の方は、北海道・マサチューセッツ協会事務局(TEL 011-231-3392 FAX 011-231-3666)	
「氏名・住所・電話番号・FAX番号」明記の上、に電話又はFAXでお申込みください。	